

第17回 和光園研究発表会

ベストショット

2025年12月18日(木) 115名(内部35名)の参加で開催し以下の6事例を発表致しました。皆さまアンケートのご協力により1位から3位までの順位が決定いたしました。順位の報告及び発表者からのメッセージをお送りします。

おもと

初春の号外版

和光園理

笑顔あふれる、和みの空間へ
 医療ケアと日常生活サービスを
 提供することによって、
 家庭への復帰を目指す施設

発行

医療法人 信和会
 介護老人保健施設
 和光園

学習療法研究会
 令和8年2月
 ☎0978-37-3887

「夫と地域で長く暮らすための学習療法」

～私の7年間の軌跡～



部署名: 通所リハビリテーション
 発表者: 江藤 紳史
 協力者: 通所リハビリ職員

取り組み1 利用開始から現在までの学習療法支援の可視化

F-SOAIIP	R1年 開始時	R7年 現在
F 焦点	・学習療法を活用し生活意欲向上へ	・学習療法で夫と暮らす為の役割作り
S 主観的側面	・お父さんに思いが伝わらない(涙) ・自分で出来る事は自分でしたい	・指先を使った細かい作業がしにくい ・教材のページが捲れるようになりたない
O 客観的側面	・左不全麻痺の障害需要が出ていない ・夫はミカン農家で忙しい	・発語も多く見られ、よくお話をされる ・杖歩行での安定した移動が出来ている
A アセスメント	・得意復活で自信を持つ事が出来る様にな ると思われる	・役割が出来る事で主婦としての自信 に繋がると思われる
I 実施	・20分の学習で本音トークの場を作る ・学習療法の情報を全職種で共有	・数字100で5分に挑戦 ・学習療法に教材早くリゲームに挑戦
P 目標	・自分の意思を伝えられる	・出来た家事を認めて意欲向上へ



通所リハビリテーション
 介護士 江藤 紳史

今回初めての研究発表で、通所職員の協力の下、該当利用者様を深く知れることが出来ました。研究発表を通じて、学習療法でのデータ分析や情報収集を集めることが大変でした。F-SOAIIPを活用しながら、学習療法を行っていききたいと思います。学習療法、パソコン操作を覚えていきスキルアップしていききたいと思います。

地域を活用した あきらめない支援

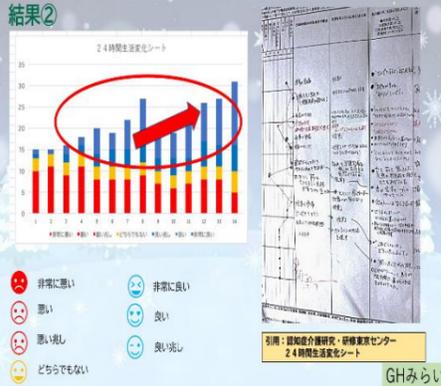
学習療法は

夢

を引き出す尊い時間



施設名: グループホームみらい
 発表者: 森若 敦子
 協力者: グループホームみらい職員



グループホーム みらい
 看護師 森若 敦子

認知症だから夢を諦めていた A 氏。散歩や温泉といった身近な活動に参加する中で「自分で選ぶ」「自分で決める」という意思決定は人生に対し、主体性を取り戻す契りのある時間になったと思われまます。学習療法の「ほめて・認める」効果と夢を諦めない思い、そして私達の関りが尊い時間につながったのではないかと感じています。

学習療法はそもそもやっていた

『新しい認知症観』

～学習療法で作る施設コミュニティ～



部署: 入所
 発表者: 宮田 優 (介護福祉士)
 協力者: 入所スタッフ一同

夏休みの子供会で作っていた婦人会のカレー作り

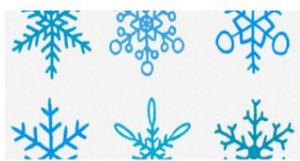


喜んだ様子を活かして!



入所療養
 介護福祉士 宮田 優

今回の研究発表で、今まで実践してきた学習療法のデータ分析を行う事で、学習療法は長期的な認知機能の維持が検証でき、認知症ケアの予防・維持・改善の大きなデータ収集となりました。また、学習者や利用者様の提案や声を傾聴し、自発的な活動への取り組みを支援出来るように努めていきたいです。



通所サービスC型の卒業場所『脳の健康教室』

【発表】 宇佐圏域地域包括支援センター 平原 裕己
 【共同研究】 いきいきみらい教室 和光園 みらい 脳の健康教室



宇佐圏域包括支援センター
 平原 裕己

通所 C 卒業後の「脳健」利用状況による認知機能・フレイル予防の違いを検証しました。利用者は MMSE が維持・向上していましたが、未利用者からは認知機能や下肢筋力の低下を自覚する声が多かったです。データからも脳健の効果が見られ、地域への普及の重要性を実感しました。

感染症マニュアルとBCPの明確化



施設名: 介護老人保健施設 和光園
 発表者: 豊田 美樹
 協力者: 感染対策委員会

◆ 感染者急変時の対応 (病院搬送訓練)



- ① マット
- ② ディスポジッシュ
- ③ ディスポズ カバー
- ④ ディスポズ 枕

感染ストレッチャー

急変時の対応はどこで感染するかわからない目に見えない物と侵入を断ることが大切



感染・褥瘡委員会
 看護師 豊田 美樹(委員長)

研究発表を通して自分自身が感染の BCP や感染マニュアルについて改めて勉強する機会となりました。発表の当日まで手直しすることがあったりと苦労もありましたが、スタッフの方々の手助けもあり、完成することが出来ました。今後もこの学びを生かし、感染対策に取り組んでいきたいです。

BCPのケア継続支援班(自衛消防隊)マニュアル作り

発表者: 今池 有貴
 協力者: 防災委員会

夜間訓練(初動対応)

夜間どの程度の照度が取れるかを検証。
 居室前: 懐中電灯
 居室内: 床頭台→電球型ライト
 懐中電灯・ランタン
 NSステーション: ランタン
 歩行介助: 介助者はヘッドライト
 被介助者はネックライト
 車椅子介助: 介助者はヘッドライト
 被介助者はネックライト



防災委員会
 理学療法士 今池 有貴 (委員長)

ケア継続支援班(自衛消防隊)の現行マニュアル見直しの訓練を行いました。初動マニュアルがあったとしても、実際に行ってみなければ分からないことが多く、訓練を通してのマニュアルの見直しが必要だと感じました。BCP は一度策定して終わりではなく、見直しが義務化された意義を、職員に周知できた取り組みだと思います。今後も実用的な災害組織作りと、マニュアル更新に努めていきたいです。